

# 企業のスモールアクション

≡ 東区 Small Action Project ≡

## 地域のために、自分たちができること

### 株式会社真城ホールディングス

「キャッスルタウン大曾根」をはじめ、市内を中心に遊技場・温浴・飲食事業などを展開している株式会社真城ホールディングス。地域社会への貢献のため、毎週水曜日に店舗周辺を清掃し、まちをきれいにしている活動を行っています。

今回、大曾根の店舗での活動取材し、活動内容やまちに対する思いを聞いてきました！

### 株式会社 真城ホールディングス



1955年にパチンコ部品製造業として開業。現在では、名古屋市を中心に「プレイランドキャッスル」など遊技場13店舗、温浴事業3店舗、飲食事業4店舗、豊田市にある猿投温泉を運営。今回取材した「キャッスルタウン大曾根」のような遊技場・温浴・飲食の複合施設を展開し、常に時代に先駆けた「遊び・癒し」を提供し続けている。

毎週、どのように活動しているのでしょうか？



久保川さん

毎週水曜日の16時頃、当番の2名で店舗の周辺を清掃しています。周辺の街路樹の植え込みや道路脇等もしっかり確認しています。

営業時間の中で活動しているんですね。



久保川さん

この時間帯が従業員の勤務時間の交代のタイミングで、一時的に人が増える時間帯なんです。15分くらいの活動ですが、できる範囲内で無理なく行っています。

印象的な出来事はありましたか？



久保川さん

ここに来る前の店舗にいた時のことですが、その日は2時間近く歩いて活動をしていました。非常に疲れたのですが、その中で常連さんに会い、「頑張ってるね!」と声をかけていただいた時は、地域に出てまちのために活動して充実感がありました。

地域の皆さんへのメッセージをお願いします！



河合さん

できる限り地域貢献等を行い、住民の皆様に安心を提供できるお店になりたいと思っています。



村上さん

この活動以外にも例えば、地域の防災協定を結んでおり、災害などの非常時には店舗の景品である水や食料をお配りするなど、できる限り私たちの資源を提供し、地域社会の役に立ちたいというのが弊社の考えです。何かあれば地域の方々のお力になりたいと考えております。

この活動を始めたきっかけや思いは？



河合さん

私たちが清掃活動をしてきれいなまちになることで、地域の方に喜んでもらえ、みんなが住みやすい街になるようにとの思いから始めました。地域にとって会社ができることをやっていきたいと思っています。

コロナ禍で思うように活動ができない等、困ったことはありましたか？



河合さん

この活動においては、以前よりも手洗い・うがいについて特に気を付けるようになりました。たくさんの従業員が行うので、周知も徹底しています。

感染対策の基本ですので徹底したいですね。



河合さん

お店の中でも、遊技機の消毒は特に目を配ってこまめに行っています。お店の中で担当のレーンがあるのですが、自分の持ち場以外でも徹底して行っています。また、マスクを外されている時間が長い方等にもお声掛けさせていただいています。気を遣いますが、安心・安全なお店として、地域のご迷惑にならないようやらせていただいております。

お話を伺ったのはこの方々

左から 河合杏菜さん、久保川翔さん、村上知隆さん



## まちの宝である、子どもたちのために 子どもの建築ワークショップ

名城大学都市情報学部 助教

田口 純子



私は大学で、まちづくりやその一部としての建築を専門に研究し、学生に教えています。

地域社会の一員として建築家が行う仕事の一つに、子どもと一緒に体験をしながら建物やまちづくりについて学ぶ「子どもの建築ワークショップ」があります。たとえば、学校で出前授業をする、放課後や休日に子ども向けのイベントを開催する、などです。ここ東海地域は、多くの建築家に関わり、保護者や地域の方々も協力して多様な実践を展開している、たいへん活発な地域です。

私が子どもの建築ワークショップを実践する建築家たちと関わる時に、とても好きになった言葉があります。それは、「大人の本気を子どもに見てもらおう」という言葉です。たとえば「どんな人がどんな目的で使う?」「使う人の気持ちは?」などの投げかけをして、実務で建築を考える上でも欠かせない空間の用途や目的に触れます。また、実寸大の材料を使いながら空間を組み上げると想定外のことも起こり、子どもたちだけでなく建築家にも対応力や即興の発想が求められます。そうして《大人と子どもと一緒に考える仲間になる》ということです。

目的を達成したことで自信がついたといった子どもたちの人間形成の充実が、時間をかけて私たちの社会や、まちづくりにも、返ってくるかもしれない。そうした期待を込めています。身近には、子どもたちの登下校にあわせた散歩での声掛けや見守り活動なども子どもたちとの関わりの一例かと思えます。ある職能や経験をもった一人の大人として子どもの学びや成長の機会に関わるということは、喜ばしく、心地よい責任感を伴うものではないでしょうか。何か自分にできることで《大人の本気を子どもに見てもらおう》場を作ることも素敵ですし、初めの一步として、そうした場に足を運んでみるのもいいかもしれません。お近くで子どもの建築ワークショップが開催されていたら、ぜひ参加してみませんか? 瑞々しい感性と伸び盛りの理性を使って「あーいいこと考えた!!」という子どもの顔を見る時の充実感は、言葉にしがたいものです。大人の本気も子どもたちの本気も連鎖して、終わったときにはきっと、仲間になっているはずですよ。

